職員のみなさんへ一言メッセージ（９７回）

百花繚乱の中、真和館にとって、９年目に入る新しい年度が始まりました。

振り返ってみれば、開業当初のドタバタから、次第に立ち直り、真和館は、「アルコール依存症と精神障害」については、どこの救護施設にも負けない「質の高いサービス」を提供できる施設創りを合言葉に、懸命に歩んできました。

お蔭様で、職員のみなさんのお一人おひとりの努力や頑張りの結果、今日では本当に素晴らしい良い施設に成長できました。本当に有り難いことです。

しかし、考えてもみてください、人とは弱いもので、チョット気を抜くと、ズルズルと緊張感の無い施設になり、チョット手を抜くと事故が頻発する施設になります。また、チョットした切っ掛けで、人はすぐ、不満分子になり、ダメ人間になります。一人でも全力投球をしない人がいると周りに伝染するし、その人に影響され、不満分子のグループができあがります。

「蟻の一穴」という言葉があります。どんなに堅固に築いた堤でも、蟻が掘って開けた小さな穴が原因となって崩壊することがあるという意味です。また、どんな巨大な組織でも些細な不祥事が原因となって、組織全体を揺るがすような深刻・致命的な事態に至る場合があるといった言葉としても用いられます。

真和館も人材不足、教育不足、管理者の力不足、連携の悪さなど様々な課題のため、蟻の一穴になりかねないような出来事もこれまで何度かありました。

幸いに、真和館はそのような危機も萌芽の内に抑えることができ、今現在の真和館があります。

先日、NHKテレビで、トヨタの創業時の自動車開発にかける執念とも言うべき物凄いドラマが何夜かに亘り、放映されていました。人、金、物も無い中で、命がけで初期のトヨタを築き上げて来られた経営者やその家族、そして従業員の苦悩と苦労が描き出されていました。

私ども真和館も、執念ともいうべき努力の上に、創意工夫を重ね「質の高いサービス」を創りだし、それを定着させて行かねばなりません。その取り組みの一端がトヨタで言えば「改善」であり、真和館で言えば、QC活動であり、５S活動であります。

この２つの活動をテコにして、倦まずたゆまず上をめざして行くことで、停滞や衰退から免れ、常に、進化、成長する真和館を創り上げましょう。

いつも、話していますように真和館は、工業の優れた管理技術を福祉分野に積極的に取り入れ、その一方、救護施設の職員である私どもは、人に対するやさしや福祉の心を大事にして行かねばなりません。その中で、特に、私は、入所者良し、職員良し、施設良しの三方良しのバランスの取れた経営を心掛けて参ります。力を合わせ、素晴らしい真和館を創って行きましょう。

平成２６年４月２５日　　真和館施設長　　藤本和彦